

上越市長 中川 幹太 様

上越市議会議長 飯塚 義隆

市民と議会の意見交換会で聴取した市民意見への対応について

市議会では、上越市議会基本条例に基づき市民と議会の意見交換会を11月6～10日に開催し、4会場で寄せられた52の意見等について、課題調整会議においてその対応方針を協議いたしました。

つきましては、課題調整会議で行政運営の参考にしていただきたい「意見等」を整理しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、意見や対応方針等については、議会だよりや議会のホームページ等で公表しますのでご承知おきください。

記

1 行政運営の参考にしていただきたい意見等 【20件】

(1) SNSについて

「SNSに接することができない市民は情報過疎になっている。その点について、行政に理解してほしい、議会としてもチェックしてほしい。」(名立区)

(2) 広報上越について

「広報上越について、なぜ月2回から月1回に変更になったのか理由が不明確である。月1回に変わったことで、市民団体が市民に的確に情報を伝えられない、ということが出てきている。また、原稿の締切日が早い、それは市内部の決裁に時間を要するためと聞いた。市民目線に立って考えていきたい。」(名立区)

(3) なおえつ うみまちアートについて

「なおえつ うみまちアートが開催され、区内の閉校した校舎から校具が持ち出され、競売されたとのことである。区民はそれらの学校に対して、後援会員として世帯ごとに負担している。売上げを少しでももらえないか。」(浦川原区)

(4) 通学について

「浦川原区などの高校生は、十日町市や六日町に通っている。ほくほく線があるので乗換えがないからだ。高田には乗換えが不便で進学しない。マイレールとして残していかなくてはならない。協力してほしい。」(浦川原区)

(5) 北越急行とえちごトキめき鉄道について

「北越急行とえちごトキめき鉄道の経営が厳しい。今後どうなるのか。」(名立区)

(6) 公の施設の適正配置について

「公の施設の適正配置計画で温浴施設が対象となっており、大潟区でも鶴の浜人魚館をどうしていか議論になっている。市でもサウンディング型市場調査を行っているが、結果について市民には何も知らされていない。手を挙げた民間事業者は温浴施設をどう活用していくのか、積極的な案を示しているのか。」(大潟区)

(7) 防災士について

「町内の唯一の防災士が死去したので、自分が資格を取った。行政との意思交換が必要だと思う。」(浦川原区)

(8) ハザードマップについて

「各戸に配布されたハザードマップで使用された地図もそうだが、大潟区の小学校の子どもたちを案内するため地図が欲しいと言ったら、2008年に撤去された波浪観測所の栈橋が残ったままの昔の地図が出された。特にハザードマップで古い地図が使用されていることは市としてどうなのか。高田地区は新しくなっているようだが13区の地図は更新されている様子がない。上越体操場ジムリーナすら載っていない。3年に一度、5年に一度でも良いが、改正する際にはきちんと最新の地図を利用してほしい。」(大潟区)

(9) 消火栓ボックスについて

「飯室の消火栓ボックスが劣化している。総合事務所に相談したが、町内会で直すのが当たり前だと言われたため、町内会で対応しているが、負担が大きいため1年に1か所しか直せない。市の補助金等はないのか。ホースが2本しか入っておらず、半分の家屋には届かない。消防団員が駆けつけるには30分かかかる。団員以外は消火すると言われていたが、現実的ではない。地元で初期消火できるように、少なくとも消防団員OBは消火栓を使用できるように、行政で何とか対応してもらえないか。」(浦川原区)

(10) 消防団員の確保について

「消防団員の確保について、これまで親が子どもに声を掛けて加入を促してきたことが多かった。地元の消防団に入るべきということを市からももっとPRし、各家庭でも親から子どもに声を掛けるようお願いしたい。」(名立区)

(11) 男女共同参画審議会について

「男女共同参画審議会委員になったが、審議過程では、委員が言いつばなしで、採択がない。これでいいのか。」(浦川原区)

(12) 砂防林の改善について

「昨冬は大雪により市民生活にも大きな影響を及ぼし、大潟区海岸一体は砂防林が大きなダメージを受けた。県もようやくドローンで調査を始め、その後対策とのことだが、今更現地調査とは遅過ぎるのではないか。松の木は倒れて、私たちは「みどりの

羽募金」でまちづくり事業に参加して、この春、倒れた木を切ったりしているが、実態調査と対策が大変遅れていると思う。上越市は長い海岸線で砂防林があるので、議会から県の方へ強く訴えてほしいと思う。倒れていても、助かる木もあるはずだが、それらがそのまま放置され一夏が過ぎている状態。市も調査しているのだろうと思うが、現地まで見ているのだろうか。何も手をつけていないことを見ると、放置していると思われる。この秋、松くい虫の問題も顕著に見られた。最近の傾向を見ると、くびきの森林組合が県に頼まれて木を切ったりするが、それは現地で切って、現地で薬で処理してそのまま放置していく。そのまま木々は放置状態なので、そのせいでかなり森林内が荒れ放題である。切った木を処理しないと、私たちも森林内の草刈りがあるのだが、中にも入っていけない。犀潟でも折れた木を切ってくれても、そこに放置したまま。実態調査をして、改善策を検討してほしい。県の調査とあわせて、市からでも、議会からでもぜひ県へ強く申入れをしていただきたい。」(大潟区)

(13) 赤い羽根共同募金について

「赤い羽根共同募金について、私の住む地域に、1世帯当たり1,000円の募金を求める封筒が各世帯に配布された。募金であるのに金額を指定するのはおかしい。1世帯といっても事情は様々な中で、一律1,000円というのも不平等ではないか。」(中郷区)
【参考】(他の参加者が回答)

そもそも赤い羽根共同募金は、社会福祉協議会の所管である。1世帯1,000円というのは、おそらく間違いではないかと思う。町内に回っているのは100円である。1,000円という額は町内独自のものかもしれない。確認して整理する。

(14) フードバンク事業について

「議会だよりを興味深く読ませていただいている。一般質問にもあった子育て支援について、非常に重要であると考えている。子育てジョイカードについても、実際に使用してみて、助かった。コロナにより経済的困窮が拡大している中で、JA女性部としてフードバンク事業に対してお米の寄付をしている。お米は玄米での希望があり提供しているが、精米する必要や運搬の費用がかかる。市としては、フードバンク事業についてどのような対応をしているのか。」(名立区)

(15) 保育園の民営化について

「保育園の民営化に当たり、市の補助制度がないと民営化は困難である。」(浦川原区)

(16) 無農薬での栽培について

「佐渡はお米を無農薬で育てている。ある農薬が子どもたちの発達障害の原因かもしれないとの報道もあった。上越市でも無農薬での栽培を進めていくという考えはあるか。」(名立区)

(17) 上沼道の工事について

「上沼道の工事が進んでいない。議員の責任もある。議員が力を尽くさないと進まない。ひょっとしたら安塚区で止まってしまうのではないか。国会議員にも責任があると思うが、十日町方面の議員と上越市議会議員で連携して力を尽くせ。山の地肌がむ

き出しになっており、地震が起これば大変だ。」(浦川原区)

(18) 放課後児童クラブについて

「放課後児童クラブについて問題を感じている。私は現在、教育補助員として働いていて、小学校と放課後児童クラブでの勤務をしている。夏休みになると私たち教育補助員は一旦、退職させられる。しかし、夏休み期間は子どもたちが多くなって児童補助員が足りないということで、結局また来てくださいと言われる。市のホームページを確認すると、本年7月の時点で児童補助員が10名程度不足と募集がかけられている。この意味は、今年度3月までで、まだ10名程度足りないという意味で、11月になってもこのページの人員募集人数は変わらない。不足を放置し続けるところが疑問である。今、不足であれば、その努力がどう変わっていったのか。放課後児童クラブや保育園だけが人員不足でないと思われる。必要なサービスが行き届かないようであれば、そもそもその人員不足を当たり前にしてほしくない。議会でもしっかりと話し合ってもらいたい。」(大瀨区)

(19) 中学校の部活動及び小学校の課外活動について

「国や県が令和5年度から本格的に進める中学校の部活動及び小学校の課外活動における外部指導者の採用について、果たして人材が確保できるのか、今後どのように進めていくのか。情報収集に努め、後手に回らぬよう早めに手を打っていただきたい。」(中郷区)

(20) 部活動の指導員について

「令和5年度からの部活動の指導員について、中郷区では現場の先生方と相談をしていて、かなり話が進んでいる。先生方は子どもたちのために何とか地域の人材でと考え、地域もそれに応えようとしている。人材探しが始まっている。議会としてもそれを認識していただきたい。」(中郷区)